

令和元年度 事業報告

自 平成31年4月1日

至 令和2年3月31日

【I】基本方針

余暇時間の増大、高齢化の進行など社会環境の変化は、人々に健康志向によるスポーツの関心を高めています。日本においてはゴールデンズスポーツイヤーズ初年度のラグビーワールドカップ2019日本大会が成功裏に終わり、2年目の東京2020オリンピック・パラリンピックは延期されましたが、ワールドマスターズゲームズ2021関西とともに、来年に向けて人々の健康志向によるスポーツに寄せる関心は益々高まりを見せています。

このような情勢下、スポーツ科学の振興と健全なスポーツ活動の発展に寄与することを目的とする当財団ではこの期待に応えるべく、改めて事業の重要性を認識し、事業活動の推進を図ってまいりました。

健康の増進と体力向上及びスポーツに関連する学術研究の助成事業では、研究課題公募から財団選定テーマによる研究委託並びに研究助成を引き続き実施いたしました。

一方、公益財団法人日本スポーツ協会への助成を行い、国民スポーツのより一層の健全な普及・発展に寄与するとともに、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会への助成を行い、障がい者スポーツの普及・振興及び障がい者スポーツの国民理解の促進に寄与しました。公益財団法人日本オリンピック委員会に対しても、オリンピック事業の推進並びにトップレベルの選手育成・強化を目的として同様の助成を行いました。スポーツ関連科学の発展を目的として一般社団法人日本体力医学会、一般社団法人日本臨床スポーツ医学会、一般社団法人女性アスリート健康支援委員会へも助成を行いました。

また平成30年度の事業成果を広く関係者に公表するため、機関誌「デサントスポーツ科学」Vol.40を発行いたしました。

【II】事業報告

(1)健康の増進と体力の向上及びスポーツ関連科学に関する研究委託並びに調査・研究に対する助成。

1)課題学術研究(5件 各100万円、総額500万円)

本年度テーマ「暑熱環境下における快適性を実現する手法に関する研究」、「衣服内環境を快適にする湿度をコントロールする手法に関する研究」、「運動後のリカバリーに有効なクールダウンを実現する手法に関する研究」、「運動時におけるウェアに関するシミュレーションシステムの構築」について公募し、学術委員及び事務局が推薦した者を理事会の諮問機関である学術委員会において審議、決定し下記5件に対し助成を行いました。

- ① 機能性ウェアへの水分散布による蒸発性熱放散促進および紫外線散乱による温熱的快適性向上

奈良女子大学 芝崎 学

- ② 高強度運動後の筋血流・酸素化動態からみたクールダウンの効果：MRI を用いた検討

新潟医療福祉大学 堀田 一樹

- ③ 全方位二軸変形試験法から導かれたひずみエネルギー密度関数を用いた衣服圧のCAE シミュレーション

大阪成蹊短期大学 山下 義裕

- ④ モータースポーツ用耐熱服のリバースエンジニアリングと温熱快適性における 3D アパレル CAD の応用可能性に係るフィジビリティスタディ

信州大学 若月 薫

- ⑤ 帽子の素材・色・形状が暑熱環境下でのスポーツ実施中の生理指標と帽子内温湿度に及ぼす影響

武蔵野美術大学 北 徹朗

2)自由課題研究 (38 件 総額 2,000 万円)

全国にわたる 113 の大学または、その他の学校、研究機関より応募された 179 件の課題の中から学術委員会の審査の結果、下記 38 件に対し助成を行いました。

《最優秀入選 (100 万円)》

＜体力医学＞系

- ① なぜ運動による覚醒レベルの上昇は認知パフォーマンスを高めるのか？

電気通信大学 安藤 創一

＜被服・工学＞系

- ② スポーツウェアにおける触覚と皮膚振動に関する基礎研究

文化学園大学 佐藤真理子

《優秀入選 (各 50 万円)》

ジャンル＜スポーツと安全＞

- ① コリジョンスポーツにおける至適な頸部周囲筋力と頸椎アライメントの解明：重症頭頸部外傷を予防するために

宮崎大学 田島 卓也

ジャンル＜運動生理＞

- ② 個人の内因性抗酸化能に応じた強度別身体活動量の検討

佐賀大学 原 めぐみ

- ③ 暑熱環境下における身体外部および内部冷却の併用の有効性の検討～運動間のリカバリーに着目して
 広島大学 柳岡 拓磨
- ④ 異所性脂肪由来のアディポカインが運動による動脈硬化度低下に及ぼす影響
 立命館大学 長谷川夏輝
- ⑤ 広範な脳領域の可塑的变化を誘導する連合性ペア刺激法の開発ー運動パフォーマンスの向上を目指してー
 東京大学 金子 直嗣
- ⑥ 抵抗性運動時の血圧上昇に及ぼすクロストレーニングの効果
 流通経済大学 大槻 毅
- ⑦ 周期的低圧低酸素環境下の持久性および自重運動が食後高血糖抑制効果に与える影響
 広島工業大学 西村 一樹
- ⑧ 閉経後の骨格筋における水分代謝とサルコペニア：運動の予防効果の分子メカニズム
 順天堂大学 洪 永豊
- ⑨ 疲労およびオーバートレーニング症候群の評価方法に関する研究ー心電図周波数解析を活用した新たな評価方法の検討ー
 福岡大学 田上友季也
- ⑩ 脊髄相反性抑制に着目した力みのメカニズムの解明
 新潟医療福祉大学 平林 怜
- ⑪ 運動による骨格筋の毛細血管密度の制御に対するマイオカインの役割
 名古屋市立大学 奥津 光晴
- ⑫ 糖化ストレスは運動抵抗性因子として働くか
 京都大学 江川 達郎
- ⑬ 加速度計を応用した運動中のエネルギー代謝の評価方法
 東海学園大学 白井 祐介
- ⑭ 運動制御性骨格筋由来分泌蛋白の心血管病予防における役割
 名古屋大学 大内 乗有

ジャンル<バイオメカニクス>

- ⑮ 座位姿勢における動的バランス能力と体幹筋横断面積の関係の解明ーチェアスキー競技におけるパフォーマンス向上を目指してー
芝浦工業大学 赤木 亮太
- ⑯ 競泳中の泳者の肺気量推定法の開発
産業技術総合研究所 鷺野 壮平
- ⑰ 幼少期における筋出力調節能力の発達過程に関する研究
奈良女子大学 大高 千明

ジャンル<医療・看護>

- ⑱ サルコペニア治療を目的としたレジスタンス運動と乳清たんぱく質の栄養摂取タイミングの有用性ー栄養療法と運動療法のランダム化比較介入試験の検証ー
徳島大学 森 博康
- ⑲ CPX に基づいた運動療法によるうつ病の個別化治療
山口大学 中川 伸
- ⑳ 心血管疾患予防に向けた、リアルタイム心拍変動解析と運動強度の自己管理システムの開発
慶應義塾大学 勝俣 良紀
- ㉑ 同種造血幹細胞移植前後のリハビリテーションによる、予後改善効果の解析
京都大学医学部附属病院 新井 康之
- ㉒ AMPK 活性化内因性単糖：1,5-AF によるエクササイズ効果増強の検証
久留米大学 菊池 清志

ジャンル<トレーニング>

- ㉓ 確立共鳴現象を応用した体性感覚情報付加による把持調整機能の促進
名古屋工業大学 和坂 俊昭
- ㉔ 異なる関節角度の自重負荷スクワットが高齢者の筋活動に与える影響およびそのトレーニング効果の検証
中京大学 吉子 彰人
- ㉕ 呼吸能力を向上させるトレーニングプログラムの確立ー高強度負荷に着目してー
国立スポーツ科学センター 安藤 良介
- ㉖ トレーニングが慢性腎臓病の進行に与える影響の解析
東京大学医学部附属病院 西 裕志

- ⑳ 運動時の筋長の違いがトレーニングにより生じる筋肥大の程度に及ぼす影響ー上肢筋群を対象にー

立命館大学 前大 純朗

- ㉑ 低酸素環境における呼吸筋トレーニングによる持続的パフォーマンスへの影響

名古屋大学 片山 敬章

- ㉒ 有酸素運動の運動強度の新たな指標に関する研究ーランニングの場合ー

札幌医科大学 鷺見 紋子

ジャンル<食物・栄養>

- ㉓ 飢餓ストレスによるオートファジーを利用した骨格筋量の維持・増進策

滋賀県立大学 中井 直也

ジャンル<用具・被服>

- ㉔ 毛管現象を付与した自己発汗式冷却下着の開発と検証

岐阜医療科学大学 田中 邦彦

- ㉕ 化繊過敏者に対する弱酸性ポリエステル繊維着用による抗かゆみ効果がもたらす深い睡眠効果の評価

松本大学 弘田 量二

- ㉖ 暑熱環境下における熱中症予防のためのクーリング方策に関する研究

京都女子大学 諸岡 晴美

- ㉗ スピントラップ法によるポリウレタン素材の熱機械劣化反応機構に関する研究

京都工芸繊維大学 坂井 亙

ジャンル<障がい者スポーツ>

- ㉘ 生体力学手法による大腿義足ランナーの膝折れリスク評価と影響因子の解明

東京工業大学 久野 元気

- ㉙ 先天性横軸形成障害（前腕欠損）を有するパラ水泳選手の身体特性に関する研究ースポーツ傷害の予防と競技力向上を目的とした基礎調査ー

国際医療福祉大学 志村 圭太

○学術委員（順不同、敬称略）

佐藤 祐造	井上 真理	押田 芳治
緒方 徹	梶原 莞爾	川原 貴
島崎 恒藏	下光 輝一	下村 吉治
田島 文博	田畑 泉	田村 照子
永富 良一	西松 豊典（令和2年3月逝去）	
西村 太良	平田 耕造	廣田 孝子
福永 哲夫	藤本 繁夫	吉岡 利忠

○助成金交付 令和元年7月

○研究成果報告書提出 令和元年12月

(2)スポーツ関連科学の発展を目的とする研究機関・団体の助成（300万円）

- 1)諸外国とのスポーツ科学における人的・学問的交流を積極的に推進するため、一般社団法人日本体力医学会への助成を行いました。
- 2)スポーツ関連科学の発展を推進するため、一般社団法人日本臨床スポーツ医学会、一般社団法人女性アスリート健康支援委員会への助成を行いました。

(3)スポーツの振興・発展を目的とする団体の助成（1,800万円）

- 1)国民スポーツのより一層の健全な普及・発展に寄与するため、公益財団法人日本スポーツ協会に助成を行いました。
- 2)オリンピック事業の推進並びにトップレベルの選手育成・強化に寄与するため、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に助成を行いました。
- 3)障がい者スポーツの普及・振興及び障がい者スポーツの国民理解の促進に寄与するため、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会に助成を行いました。
- 4)地域の草の根的なスポーツ活動の普及・発展に寄与するため、公益財団法人大阪コミュニティ財団に助成を行いました。

(4)機関誌の発行

平成30年度の事業内容を公表するため第40回研究成果報告書を中心とする「デサントスポーツ科学」Vol.40を令和元年6月に発行し広く研究機関関係者に公表致しました。

(5)機関誌「デサントスポーツ科学」データベース化

当財団の機関誌「デサントスポーツ科学」は、体育学、健康科学、人間工学、被服科学など幅広い研究を掲載しており、信州大学繊維学部が推進している「産学連携情報提供支援データベース」に登録しております。これにより、機関紙の内容が世界に向けて公開されることとなり、併せて、学術論文の質的向上が図れることが期待できます。

以上

令和元年度決算報告書

貸借対照表

令和2年3月31日現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
(1) 現金預金	9,908,694	17,583,120	△ 7,674,426
流動資産合計	9,908,694	17,583,120	△ 7,674,426
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	2,568,983,610	5,262,954,700	△ 2,693,971,090
定期預金	0	30,000,000	△ 30,000,000
基本財産合計	2,568,983,610	5,292,954,700	△ 2,723,971,090
(2) 特定資産			
助成金準備資金	40,000,000	16,000,000	24,000,000
特定資産合計	40,000,000	16,000,000	24,000,000
固定資産合計	2,608,983,610	5,308,954,700	△ 2,699,971,090
資産合計	2,618,892,304	5,326,537,820	△ 2,707,645,516
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金	12,252	12,252	0
流動負債合計	12,252	12,252	0
負債合計	12,252	12,252	0
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
基本金	2,568,983,610	5,292,954,700	△ 2,723,971,090
指定正味財産合計	2,568,983,610	5,292,954,700	△ 2,723,971,090
(うち基本財産への充当額)	(2,568,983,610)	(5,292,954,700)	(△556,974,391)
2. 一般正味財産	49,896,442	33,570,868	16,325,574
(うち特定資産への充当額)	(40,000,000)	(16,000,000)	(3,000,000)
正味財産合計	2,618,880,052	5,326,525,568	△ 2,707,645,516
負債及び正味財産合計	2,618,892,304	5,326,537,820	△ 2,707,645,516

正味財産増減計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	10,410,000	10,718,778	△ 308,778
基本財産受取配当金	42,971,318	38,013,089	4,958,229
基本財産運用益計	53,381,318	48,731,867	4,649,451
②特定資産運用益			
特定資産受取利息	1,000	1,000	0
特定資産運用益計	1,000	1,000	0
③受取寄付金			
受取寄付金	30,000,000	0	30,000,000
受取寄付金計	30,000,000	0	30,000,000
④雑収益			
受取利息	163	366	△ 203
雑収益	22,392	20,088	2,304
雑収益計	22,555	20,454	2,101
経常収益計	83,404,873	48,753,321	34,651,552
(2) 経常費用			
①事業費			
支払報酬	0	0	0
会議費	2,612,781	2,129,604	483,177
旅費交通費	2,786,993	1,297,819	1,489,174
通信運搬費	85,956	57,861	28,095
研究助成費	18,280,875	23,874,000	△ 5,593,125
支払手数料	589,364	629,856	△ 40,492
支払寄附金	15,000,000	13,000,000	2,000,000
資料収集調査費	775,000	725,000	50,000
機関誌発行費	6,807,168	6,268,512	538,656
40周年記念事業費	17,704,950		17,704,950
雑費	300,000	300,000	0
事業費計	64,943,087	48,282,652	16,660,435
②管理費			
支払報酬	0	0	0
会議費	159,043	42,848	116,195
旅費交通費	419,206	273,030	146,176
通信運搬費	107,410	57,066	50,344
消耗品費	0	3,558	△ 3,558
支払手数料	790,828	666,188	124,640
賃借料	116,640	116,640	0
顧問料	261,600	259,200	2,400
雑費	281,485	188,372	93,113
管理費計	2,136,212	1,606,902	529,310
経常費用計	67,079,299	49,889,554	17,189,745
当期経常増減額	16,325,574	△ 1,136,233	17,461,807
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	
当期一般正味財産増減額	16,325,574	△ 1,136,233	17,461,807
一般正味財産期首残高	33,570,868	34,707,101	△ 1,136,233
一般正味財産期末残高	49,896,442	33,570,868	16,325,574
II 指定正味財産増減の部			
①基本財産評価損益	△ 2,693,971,090	2,017,999,203	△ 4,711,970,293
②一般正味財産への振替額	△ 30,000,000	0	△ 30,000,000
当期指定正味財産増減額	△ 2,723,971,090	2,017,999,203	△ 4,741,970,293
指定正味財産期首残高	5,292,954,700	3,274,955,497	2,017,999,203
指定正味財産期末残高	2,568,983,610	5,292,954,700	△ 2,723,971,090
III 正味財産期末残高	2,618,880,052	5,326,525,568	△ 2,707,645,516

正味財産増減計算書内訳表
平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位：円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	7,807,500	2,602,500	10,410,000
基本財産受取配当金	42,971,318	0	42,971,318
基本財産運用益計	50,778,818	2,602,500	53,381,318
②特定資産運用益			
特定資産受取利息	1,000	0	1,000
特定資産運用益計	1,000	0	1,000
③受取寄付金			
受取寄付金	30,000,000	0	30,000,000
受取寄付金計	30,000,000	0	30,000,000
④雑収益			
受取利息	0	163	163
雑収益	0	22,392	22,392
雑収益計	0	22,555	22,555
経常収益計	80,779,818	2,625,055	83,404,873
(2) 経常費用			
①事業費			
会議費	2,612,781	0	2,612,781
旅費交通費	2,786,993	0	2,786,993
通信運搬費	85,956	0	85,956
研究助成費	18,280,875	0	18,280,875
支払手数料	589,364	0	589,364
支払寄附金	15,000,000	0	15,000,000
資料収集調査費	775,000	0	775,000
機関誌発行費	6,807,168	0	6,807,168
40周年記念事業費	17,704,950	0	17,704,950
雑費	300,000	0	300,000
事業費計	64,943,087	0	64,943,087
②管理費			
支払報酬	0	0	0
会議費	0	159,043	159,043
旅費交通費	0	419,206	419,206
通信運搬費	0	107,410	107,410
支払手数料	0	790,828	790,828
賃借料	0	116,640	116,640
顧問料	0	261,600	261,600
雑費	0	281,485	281,485
管理費計	0	2,136,212	2,136,212
経常費用計	64,943,087	2,136,212	67,079,299
当期経常増減額	15,836,731	488,843	16,325,574
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期一般正味財産増減額			16,325,574
一般正味財産期首残高			33,570,868
一般正味財産期末残高			49,896,442
II 指定正味財産増減の部			
①基本財産評価損益			△ 2,693,971,090
②一般正味財産への振替額			△ 30,000,000
当期指定正味財産増減額			△ 2,723,971,090
指定正味財産期首残高			5,292,954,700
指定正味財産期末残高			2,568,983,610
III 正味財産期末残高			2,618,880,052

注) 共通費用は公益目的事業会計と法人会計に配賦している。

財 産 目 録
令和2年3月31日現在

(単位：円)

科 目	使用目的等	金額
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金	小口現金	336,700
普通預金 三井住友銀行船場支店	運転資金として使用している。	9,566,994
普通預金 北國銀行大阪支店	運転資金として使用している。	5,000
現金預金合計		9,908,694
流動資産合計		9,908,694
2. 固定資産		
基本財産		
投資有価証券 ロイズバンク（ユーロ債）	公益目的保有財産であり、運用益を主に公益目的事業の財源として使用している。	100,000,000
シルフリミテッド（ユーロ債）	同上	100,000,000
ノムラ・ヨーロッパ・ファイナンス（ユーロ債）	同上	100,000,000
みずほ証券 S C B クレジットリンク債	同上	100,000,000
3回ソフトバンク G 利払繰延期限前償還劣後債	同上	70,000,000
株式会社デサント株式1,652,743株(時価1,270円)	同上	2,098,983,610
基本財産合計		2,568,983,610
特定資産		
助成金準備資金		
定期預金 北國銀行大阪支店	令和2年度および令和3年度の助成金交付のために積立している資産であり、特定費用準備資金として管理	30,000,000
定期預金 三井住友銀行船場支店		10,000,000
特定資産合計		40,000,000
固定資産合計		2,608,983,610
資産合計		2,618,892,304
II 負債の部		
1. 流動負債		
預り金	源泉税預り金	12,252
流動負債合計		12,252
負債合計		12,252
正味財産		2,618,880,052

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券については、取得原価によっている。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	30,000,000	0	30,000,000	0
投資有価証券	5,292,954,700	0	2,723,971,090	2,568,983,610
小計	5,322,954,700	0	2,753,971,090	2,568,983,610
特定資産				
助成金準備資金	16,000,000	40,000,000	16,000,000	40,000,000
小計	16,000,000	40,000,000	16,000,000	40,000,000
合計	5,338,954,700	40,000,000	2,769,971,090	2,608,983,610

(注) 1. 定期預金は一般正味財産への振り替えのため取り崩したものであります。

2. 投資有価証券の減少額はデサント株式の期末時価評価による評価差額であります。

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
投資有価証券	2,568,983,610	2,568,983,610	0	0
小計	2,568,983,610	2,568,983,610	0	0
特定資産				
助成金準備資金	40,000,000	30,000,000	10,000,000	0
小計	40,000,000	30,000,000	10,000,000	0
合計	2,608,983,610	2,598,983,610	10,000,000	0

4. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、評価額及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	帳簿価額	評価額	評価損益
投資有価証券			
ロイズバンク（ユーロ円債）	100,000,000	100,800,000	800,000
シルフリミテッド（ユーロ円債）	100,000,000	102,960,000	2,960,000
ノムラ・ヨーロッパ・ファイナンス（ユーロ債）	100,000,000	92,360,000	△ 7,640,000
みずほ証券SCBクレジットリンク債	100,000,000	100,000,000	0
3回ソフトバンクG利払繰延期限前償還劣後債	70,000,000	64,792,000	△ 5,208,000
合計	470,000,000	460,912,000	△ 9,088,000

監査報告書

公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団
理事長 石本和之殿

令和2年 5月28日
公益財団法人 石本記念
デサントスポーツ科学振興財団

監事 篠原 祥哲



監事 高木 茂太市



監事 檜垣 誠次



私たちは、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの事業年度における理事の業務執行及び会計の監査を行い、その方法及び結果について、次のとおり報告する。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事会及びその他の会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産状況の調査を行った。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討した。

さらに、会計帳簿並びに関係書類閲覧など必要と思われる調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録の妥当性を検討した。

2 監査意見

(1) 事業報告書等の監査結果

- 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。
- 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められなかった。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認める。